

会 見 年 月 日	令和8年3月25日（水曜日）		
担 当 課	教育委員会文化財課市史編さん担当	（担当者名：小野）	
問い合わせ先	TEL：0791-43-6848	（内線： ）	FAX：0791-43-6848

『赤穂市史史料集』第12集の発刊について

1. 趣 旨

平成26年度より刊行している『赤穂市史史料集』シリーズについて、今回第12集を発刊します。

2. 内 容

『赤穂市史史料集』シリーズは、『赤穂市史』や『忠臣蔵』の史料編に紙幅の都合などで収録できなかつた史料を幅広く取り上げ、未永く後世に伝え残していくため、平成26年度より刊行を行っているものです。

今回発刊する第12集は、昭和初期に赤穂尋常高等小学校が行った調査の成果をまとめた『郷土調査』を中心に収録します。

また、付録として、『郷土調査』を基に児童の郷土学習副読本として編まれた『赤穂郷土読本』を収めています。

販売開始：令和8年3月27日（金）より

『赤穂市史史料集』第12集の発刊

赤穂市の修史事業は、昭和52年に始まり、昭和56年9月の『赤穂市史』第1巻発刊から、平成26年1月の『忠臣蔵』第7巻まで、37年間で、『赤穂市史』全7巻、『忠臣蔵』全7巻を編集・発刊して完結した。

『赤穂市史』『忠臣蔵』の編集にあたっては、国内外の多くの史料所蔵者の理解と協力を得て、膨大な史料の情報を集積することができた。しかしながら、これら赤穂の歴史を物語る史料、赤穂事件や忠臣蔵に関する史料の収録は、限りある紙幅の中では、やむなく割愛したり、部分的な収録に留めざるをえなかったものも少なくない。

そこで、『赤穂市史』や『忠臣蔵』の史料編に収録できなかった貴重な史料を幅広く取り上げ、未永く後世に伝え残していくため、平成26年度より『赤穂市史史料集』シリーズの刊行を開始した。本シリーズの刊行により、郷土赤穂の歴史や赤穂事件・忠臣蔵の研究の進展に寄与することを企図する。

1. 名 称 『赤穂市史史料集』第12集（赤穂尋常高等小学校郷土調査）
2. 本の体裁 A5判 314ページ
3. 発行部数 700部（内販売分 530部）
4. 内 容 昭和初期の全国的な郷土教育の振興を受けて、赤穂尋常高等小学校が行った郷土調査の成果をまとめた『郷土調査』全文を活字化して収録した。付録として、『郷土調査』を基に児童の郷土学習副読本として編まれた『赤穂郷土読本』を収めた。
5. 販売価格 550円（送料別途）
6. 販売場所 赤穂市教育委員会 市史編さん担当
赤穂市加里屋中洲3-56 TEL/FAX. 0791-43-6848
7. 販売開始 令和8年3月27日（金）

（参考）『史料集』既刊：各在庫あり

- | | | | |
|--------------------|-------------|----|------------|
| ・第1集「赤穂藩森家諸役姓名録」 | A5判 162 ページ | 1冊 | 250円（送料別途） |
| ・第2集「赤穂藩森家分限帳集」 | A5判 82 ページ | 1冊 | 200円（送料別途） |
| ・第3集「年中用事控（Ⅰ）」 | A5判 228 ページ | 1冊 | 350円（送料別途） |
| ・第4集「年中用事控（Ⅱ）」 | A5判 300 ページ | 1冊 | 350円（送料別途） |
| ・第5集「年中用事控（Ⅲ）」 | A5判 318 ページ | 1冊 | 400円（送料別途） |
| ・第6集「年中用事控（Ⅳ）」 | A5判 330 ページ | 1冊 | 350円（送料別途） |
| ・第7集「年中用事控（Ⅴ）」 | A5判 428 ページ | 1冊 | 450円（送料別途） |
| ・第8集「年中用事控（Ⅵ）」 | A5判 342 ページ | 1冊 | 400円（送料別途） |
| ・第9集「明治二十五年赤穂郡洪水史」 | A5判 280 ページ | 1冊 | 400円（送料別途） |
| ・第10集「赤穂藩浅野家分限帳集」 | A5判 200 ページ | 1冊 | 350円（送料別途） |
| ・第11集「赤穂塩務局建築関係資料」 | A5判 264 ページ | 1冊 | 700円（送料別途） |

今後収録予定の史料

- ・加里屋大年寄前川新右衛門案紙帳之抄書
- ・真殿村検地帳
- ・誠忠義臣略伝＋忠臣銘々画伝
- ・御廻状御用書留帳
- ・綿屋文書（義士書状集）
- ・赤穂藩御触書集成
- など

『赤穂市史史料集』第12集の主な内容

○巻頭写真

- ・赤穂尋常高等小学校全景・条校長・校旗
 - ・赤穂尋常高等小学校職員・町有志集合写真
- 各『昭和六年三月 卒業記念写真帖』より

○『赤穂尋常高等小学校 郷土調査』

昭和初期の赤穂町を中心とする郷土の沿革、政治、諸官公衙、産業、交通、教育、宗教、名勝旧蹟、人物など16項目について、赤穂尋常高等小学校職員が分担して調査した成果をまとめたもので、昭和7年（1932）8月に謄写版により発行された。

本書の章立ては次のとおりである。

第1章 沿革	第2章 政治	第3章 諸官公衙	第4章 産業
第5章 交通	第6章 兵事・衛生・消防	第7章 教育	
第8章 宗教	第9章 神社	第10章 仏閣	第11章 名勝旧蹟
第12章 文学・美術・工芸	第13章 人物	第14章 衣食住	
第15章 風俗習慣	付録 郷土史年表		

データの典拠が明確でない、データ未記載の箇所がある、調査・考証が不十分の箇所があるなど不備な点も散見されるが、今日では得がたい情報も少なからずあり、かつ昭和初期という時代を理解するうえで貴重な記録である。

各章の内容は、史料集巻末の解説に概略を記載している。

○付録『赤穂郷土読本』

『郷土調査』の中から材料を選び出して、児童の郷土理解を一層深めやすいよう読み物として編まれたのが『赤穂郷土読本』である。昭和9年（1934）12月に謄写版で発行された。

本書の章立ては次のとおりで、郷土の自然や産業を誇り、先人の功績を称え、将来のさらなる発展を希求する内容となっている。

1 わが赤穂	2 浅野長直公	3 山登り	4 森蘭丸
5 大石を思へば	6 赤穂城址	7 山鹿素行	8 千種川
9 華岳寺	10 遠足	11 義士精神	12 朝詣で
13 蜜柑山	14 秋祭	15 工場巡り	16 大石主税
17 赤穂塩	18 郷土をうたへる	19 義士の討入	20 郷土の一年
21 交通	22 町の政治	23 赤穂郡	24 兵庫県

他所から来た友人との対話の中で郷土の現況と将来の展望を語り聞かせたり、児童が父親にテーマに即した質問を投げかけ、父親が解説を加えながら答えていくという会話体で記述されたものが多く、児童にとって比較的平易な文章にすることによって、郷土への理解と愛着を醸成することに主眼が置かれている。

※これらの書物が実際の教育カリキュラムの中でどのように活用されたのかを示す資料は、現時点では見出されておらず、郷土教育の実践、図書館の活用の実態については不明である。